

平成22年度の広島県における生徒指導上の諸問題の現状（速報）について

広島県教育委員会

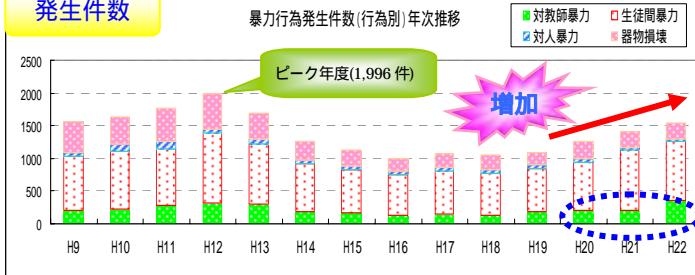
暴力行為

暴力行為とは：
「自校の児童生徒が、故意に有形力（目に見える物理的な力）を加える行為」をいい、「対教師暴力」「生徒間暴力」「対人暴力」「器物損壊」の四形態に分けて調査

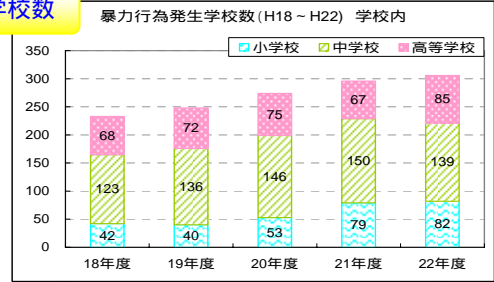
暴力行為の発生件数（公立小中高等学校）：
1,543件
（小学校：247件 中学校：1,068件 高等学校：228件）

児童生徒1,000人当たりの発生件数（公立小中高等学校）：
5.5件（全国4.5件）

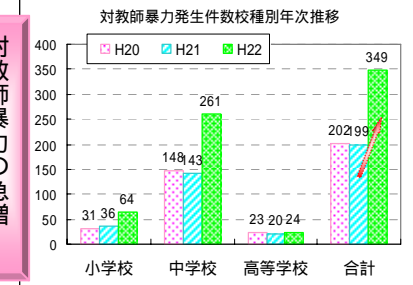
発生件数



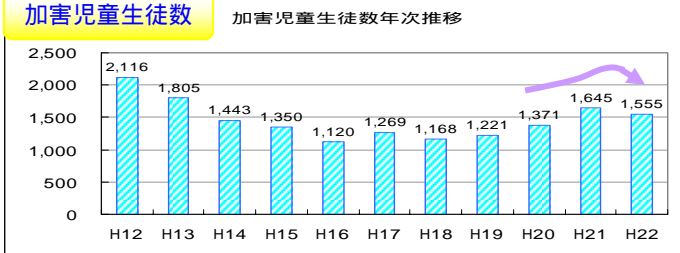
発生学校数



対教師暴力の急増！



加害児童生徒数



特徴

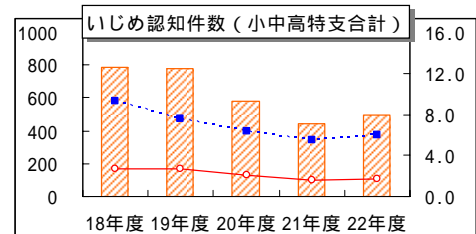
- 小学校
暴力行為発生件数が3件、1%増加
（対教師暴力は28件、78%増加）
- 中学校
暴力行為発生件数が121件、13%増加
（対教師暴力は118件、83%増加）
- 高等学校
暴力行為発生件数が17件、8%増加
（対教師暴力は4件、20%増加）

いじめ

いじめとは：
平成18年度調査から「当該児童生徒が、一定の人間関係のあるものから、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」として調査

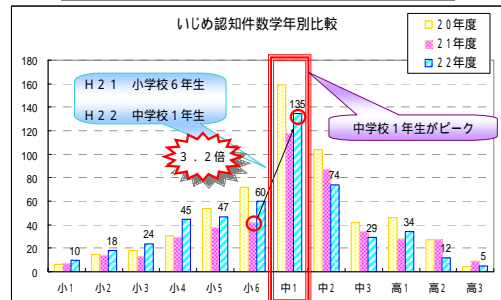
いじめの認知件数（公立小中高特別支援学校）：
493件（小学校：202件，中学校：237件，
高等学校：46件，特別支援学校：8件）

児童生徒1,000人当たりの認知件数(公立小中高特別支援学校)：1.7件(全国6.0件)



【いじめの態様の構成比】(上位のもの 複数回答)

- 冷やかしゃからかい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる → 41.7%
- 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする → 15.7%
- 仲間はずれ、集団による無視をされる → 15.2%
- パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる → 2.9%



特徴

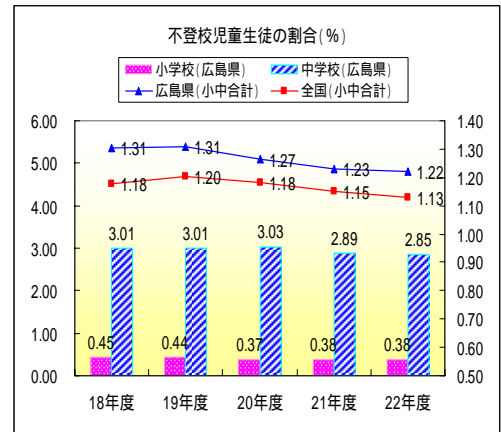
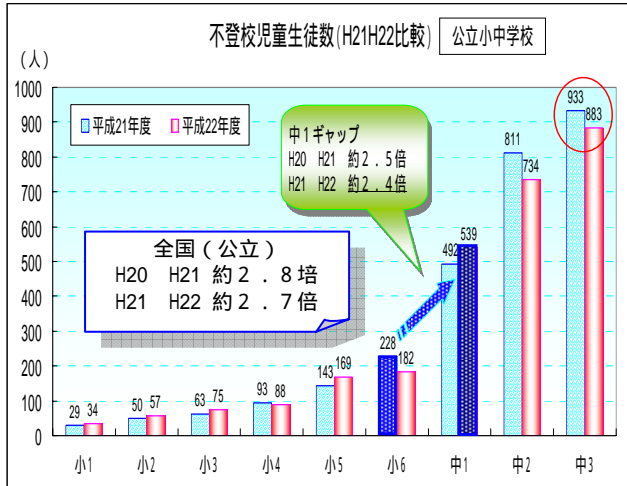
- 小学校1年生から学年進行とともに増加し、**中学校1年生がピーク**である。
- 小学校6年生から中学校1年生にかけて増加している。

不登校

不登校とは：
何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にあること（ただし、病気や経済的な理由によるものを除く）をいう。

不登校児童生徒数（国公立小中学校）：
2,945人（小学校：608人，中学校：2,337人）

不登校児童生徒の割合（国公立小中学校）：
1.22%（小学校0.38%，中学校2.85%）
（全国 1.13%）



特徴

【不登校児童生徒の割合】

全国との格差は、0.09ポイントであり、全国と比較すると依然として高い。

平成21年度との比較では、小学校では増減なし、中学校では、0.04ポイント減少している。

中1ギャップとは：

小学校6年生時と中学校1年生時の不登校生徒数を比較すると約3倍前後に急増する傾向のこと

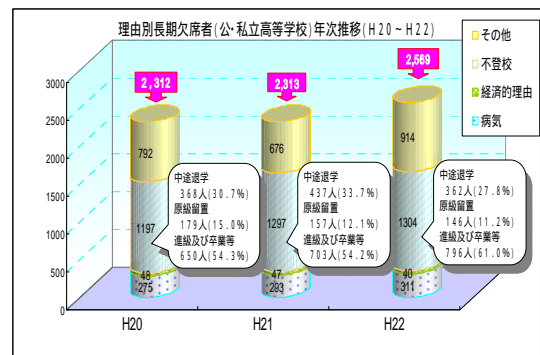
高等学校長期欠席

長期欠席生徒とは：
年度間に連続又は断続して30日以上欠席した生徒

欠席理由は「病気」「経済的理由」「不登校」「その他」の主なものを一つ選ぶ

高等学校長期欠席者数（公立高等学校）：
2,569人

高等学校長期欠席者数の割合（公立高等学校）：
3.44%（全国 2.61%）



平成22年度「不登校」を理由とする長期欠席生徒1,304人のうち、中途退学した生徒は362人(27.8%)、原級留置になった生徒は146人(11.2%)となっている。

中途退学

中途退学者数（国公立高等学校 全日制・定時制）：
1,335人

中途退学率（国公立高等学校 全日制・定時制）：
1.8%（全国1.6%【中等教育学校後期課程を含む】）

